

DEPARTMENT OF PRIME MOVER ENGINEERING AND MECHANICAL ENGINEERING



東海大学機友会々報

秋 三二先生筆

機友会の今後のテーマについて

機友会会長 河西正彦



会の運営は、会員の方々と学科のご協力を得て予算の問題を除き順調であります。真に有難うございます。

そこで今後の活動の円滑を計るためまた、テーマとして現在次の様な事柄を検討しておりますのでご報告申し上げます。

- 一、賛助会員の募集
- 二、地方支部役員募集
- 三、理事、役員増員の増員、役割の見直し
- 四、学科への貢献

これらの案件は、会の充実と発展性のある土台づくりをするため慎重に検討しなければなりません。何故ならば、会の毎年実行する事業は次の様にあります。年二回発行の会報編集、新入生のオリエンテーションへの参加、学科研究室の研究内容等の調査、学科との懇談会(本年第一回を開催)11月3日の卒業生懇談会、新卒業生への対応(謝恩会参加、卒業生のしおり編集発行)約八名、名会員の会費管理、名簿データベースのインプット、その他その都度発生する事柄等々です。これらを充実していかねばならない定形的作業以外に一、二、にあげた賛助

会員の件、地方支部の件は非常に負担が大きく、会の現在の力量では無理ではないかと考えられるからであります。

しかし逆にこの案件を克服することが、理想とする会の運営に近づくのであって、放置することの方が会の本来の目的を遂行できなくなる恐れがあるのではないかと考え積極的方針を選択したのであります。

賛助会員の募集は、本学に關係する卒業生で一定の力を社会的に得て本会に参加可能な個人または会社関係者に会員となつて頂き安定した資金、広告掲載をお願いするものです。

また地方支部役員募集は、各都道府県で積極的(ボランティア精神のある方)に会に参加できる人材を広く求め、とすれば東京中心になりがちな行事を、地方レベルで実行できる体制づくりの布石でもあります。全員参加可能な将来の展望を開くものです。

そのため三、にあげた理事役員の増員と業務分掌規定の見直しを行い、定形化された事業をより専門的にし、一方では新しい企画に対する担当者専任として、力強く活動する形をつくりたいと考えました。

学科への貢献は、本会の目的の一つでもあり以前から検討されておりました。その結果いくつかの意見の中から機友会の総意として会から学科を通じて研究費を支援助申し上げることになりました。内容は一研究室へ五万円として二研究室十万円であります。会費の

使途等はすべて学科におまかせします。ささやかなスタートですがどうぞご了承の程お願い申し上げます。

康井教授、副工学部長専任となられる

さて学科の人事も大きく動きました。康井義明教授は、主任教授をご兼任されておりましたが四月からは副工学部長専任となられ、工学部全体の運営の責任者として全学の発展の為に活躍されることになりました。私達会員としては、先生のご栄誉を心から称えるところであります。

その結果、主任教授に林守仁先生(第二兼任)副主任教授に粕谷平和先生(第二兼任)副主任教授に石橋一久先生(新任)が就任され、大学院主任教授佐野妙子先生は留任であります。先生方におかれましては、ご健康にてご重責を果されることを、ご祈念申し上げます。

過日第一回学科・機友会懇談会におきまして、各先生方のお考えを拝聴する機会を得ました。その席上本学の新しい方針と考え方をご説明いただき、ゆるぎない本学への或いは学科への情熱を感じ、あらためてご信頼を寄せさせて頂きました。

また機友会に対し、先生方は、継続的にこれらも会を充実させるよう希望され学科同窓会の中で最高クラスの活動をされているとのお誉めのお言葉を頂戴いたしました。

機友会役員一同これからも力を合せて頑張ります。どうか宜敷くご支援の程お願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。



水と空気と環境の明日を考える...

荏原グループ

荏原製作所・荏原サービス・荏原プラント建設・マツボロ
荏原環境エンジニアリング・荏原エンジニアリングサービス
大岩機器工業所・荏原電産・荏原金剛・荏原シンワ・荏原商事 他

第1回 動力機械工学科・第二機械工学科と懇親会

「場所」東海大学校友会館(電が
関)33階)

(司会) 本日は、ご出席ありがとうございます。機友会も昭和56年11月に発足いたしました。13年を経過いたしました。今回は、念願でありました学科との「コミュニケーション」を図る場として、初めて先生方をお招きして打合せ会議を開催したいと思っております。

まず最初に、機友会会長の河西正彦氏よりご挨拶をいたします。

(河西会長) 機友会活動も13年を数え、会報新聞・名簿の発行の他運営も多岐にわたるようになり、活動内容も充実してまいりました。ひとえに、本日ご出席の皆様のご尽力の賜物と思っております。これからもう宜しくお願い申し上げます。(司会) この打合せ会議は、これから毎年継続して開催したいと考えております。



次に、東海大学の近況、大学の教育方針というテーマで康井先生にお話をお願いいたします。(康井 副工学科長) 本日は、お招きいただきましてありがとうございます。さて、今大学は、東海大学に限らず変わりつつあると思っております。

現場サイドから見ても、最近の新聞紙上からも、大学は冬の時代に陥りつつあり、今後学生の数は激減していくでしょう。しかし、私共私大は国立大に比べて圧倒的な数を有し、社会も私大の卒業生が動かしていると考えます。その中でも、東海大学は、学生数も多く幼稚園から大学まで一貫教育が出来得る環境にあると思っております。50数年という若い大学でありながら、世間から注目される学校となっていると思っております。

今後の方針としては、大学の教育内容の充実を図らなければならぬと考えます。それは、大学に魅力が無いと学生は集まらないことを考えれば、我々としては、真剣に検討すべき時期にあると思っております。

幸いにも、東海大学は、国際交流が盛んであり、スポーツでも知名度が高い大学であります。40%は理工系の学生でありますから、技術に関する方面で学生がどう活躍していくかが、私達の課題であり問題であると考えます。大学冬の時代に加え、学生の理工系離れの問題がクローズアップされる今、東海大学建学の理念から考えても、工学部の動向によって東海大学の今後が決まると考えても、大袈裟ではないと思っております。

現在、新しいカリキュラムを導入して2年になります。2、3年後には、もっと新しい方法の導入も計画されており、各先生には国立と違って大変なご苦労をお掛けすることになってまいります。

が、魅力ある教育課程に向かって邁進している現状であります。

(司会) 大変重要な方針・方向をお話しいただきましてありがとうございます。私共機友会も、一助になるよう活動したいと思います。

林先生には、動力機械工学科としての目標と狙いというテーマでお話戴けますでしょうか。(林 主任教授) 二つの学科の主任教授となりまして、重責を担うことになりました。宜しく願います。

大学とは本来、知的創造活動の中心であり、文化の牽引をするものと考えます。また、中心になるのは人、特に教員が中心であるとの立場で考えます。教員がその使命に燃えていることが、知的活動を活性化させ大学を発展させることになると思います。



ご希望等がありましたらお願いいたします。(康井 副工学科長) 既にいろいろと恩恵を受けておりますが、他学科の同窓会活動と比較しても、かなりご助力をいただいていると感じています。今後、将来の担い手である学生を援助するという基本理念で学科と協力して活動していただきたいと思っております。

(司会) ありがとうございます。他に、質問等ありましたらお願いいたします。(平井 事務局長) 卒業生に連絡を必要とする場合が度々見受けられ、正確な卒業名簿は無いのかとの問い合わせがあるのですが、どうなっておりますか。

(小杉 事業部長) 現在会員数が八名を超え、約20%が現住所未確認の状況にありデータのメンテナンスが急務となっております。ただいま、データの一元化をして精度の高い名簿管理にすべく作業をすすめており、来年3月頃に第一段階の成果を出したいと考えております。

(司会) 今回は、第一回の打合せ会議に相応しく、貴重なご意見等がたくさん戴けました。機友会も学科の発展に寄与すべくがんばりたいと思っております。最後に、記念写真の撮影を行いました。本日の打合せ会議を終了いたします。ありがとうございます。

で生まれ で育った の専門会社

エンジニアリングから施工管理まで

EbAsho

荏原商事株式会社

〒104 東京都中央区銀座6-6-7(朝日ビル2階)
電話 03-3572-0261(大代表) FAX 03-3572-0275

- 支社一北陸 ●支店一金沢・富山・福井・名古屋・北海道
- 営業所一東北・静岡・大阪・豊橋 ●出張所一滋賀・敦賀

明日も いっしょに

めぐり逢い

材料力学研究室 設立二十五周年記念行事開催



さる四月二十九日東海大学校友会館にて、材料力学研究室設立二十五年を祝う記念行事がOB約百五十名の参加のもと取り行われました。これは、旧後藤研を一つの幹として、大学内においても、多方面に成長し、大勝研、橋本研、康井

研 國本研、粕谷研、森山研と数多くの枝ぶりが見られる樹になつた材料力学研究室が設立二十五周年つまり四分の一世紀を迎える事を一つの節目とし、記念行事を開催する案が提示されました。これを受けて、研究室OB、大学教職員、現役大学院生と学生から成る記念行事準備委員会が結成され、私もこの委員会に参加させていただき約一年間の準備期間を経て開催されました。また併せて記念誌も発行しました。

当日は、まず康井先生より東海大学の発展と共に歩んできた、機械工学科・動力機械工学科の歴史、また現在の社会ニーズに応えるための教育研究内容の報告および将来の大学教育についての動向などの講演があり、その後記念パーティが行なわれました。記念パーティでは、東海大学理事・東海大学短期大学部学長秋先生はじめ、多くの方々よりお祝いの言葉を頂き、また各卒業年度ごとの方々から近況や卒研時代の思い出などを報告していただくなど終始なごやかな歓談のうちに無事閉会することができました。

今回、この記念行事を通じて感じた事は、社会人となられたOBの方々の業務内容は多種多様で広い範囲にわたり活躍されているということことです。これだけ広がった材料研の大学内外の人材による縦・横の情報交換のシステムがあれば、また新しい今よりワンステップ上の展望が開けるかも知れません。また、今までの二十五年は、材料研の創世期、発展期であ

機友会会費納入者



安部元博 1975年度卒

り、今後は我々の伝統を育てていく時期であると思います。そのためにまずまず社会人OB、大学人、学生との交流、情報交換が必要ではないでしょうか。このような人脈の和が社会に貢献できれば、最高だと思えます。今回のこの記念行事がそのきっかけとなれば幸いです。

- 小保方富夫、川田伸也、山崎洋至、都郷隆、三澤信彦、相川慎一、菅谷健、大森昌一、篠原正美、小野寺卓己、深沢隆仁、仲尾益幸、藤間恵一、伊藤幸範、戸村正夫、岸修、大浦勝也、小幡玄郎、保倉静太郎、山名昭義、菅原良吉、米森孝典、米森弘行、泉雅人、鳴海信成、宗村昌幸、廣原正康、坂本敬一、西岡司、鴨田文雄、江口将人、尾川彰、小泉敬美、櫻井信裕、佐野禎彦、志村文規、杉山浩基、仲山安寿、野路武史、花輪博行、福島有悟、松井俊光、溝上信行、村上淳、渡邊嘉和、張ヶ谷秀隆、長嶋正幸、石田大成、漆原英隆、大塚知之、小木原吉紀、川嶋竜雄、五味和弘、塩野谷英則、鈴木崇高、高澤典夫、長井寛智、野波幸伸、早川圭一、平山光昭、福田隆、星川典由、松尾尚典、峰直人、望月義貴、山崎敏行、中島雄一、荻野

- 哲、安里光晴、石山裕介、井上雅之、岡種次、奥博司、貝原英樹、小松広明、權守光、下屋敷匠、鈴木雅史、飛沢重幸、中田正樹、長沢隆大、平脇聡志、宮川圭弘、森知之、山田喜信、涌嶋一幸、和田光司、阿部孝博、奥角健一、風間英樹、河合和啓、神田三起夫、草場栄至、黒河内勇人、小林俊文、子安秀樹、清水淳史、関信浩、高田秀一、戸部亘、中野一宏、長島章夫、橋本俊二、東嶋克樹、藤盛眞、堀切進、松本行央、宮崎史隆、矢島宏光、山本芳直、和光正仁、和田創、福澤弘剛、安部勉、大崎正道、岡田拓志、菊池孝幸、黒野祐平、小山哲義、清水俊介、関善之、高月宏樹、中尾新一郎、青山淳、永田慶太、仁藤啓介、橋本泰岳、深沢政道、丸山貴和、宮澤英樹、安野豪右、渡辺隆也、稲村幸久、桜田忠臣、李谷昌孝、池田靖弘、太田健、岡本一利、片山幹川口寛人、菊地原裕、郷原博幸、歳桃庸男、佐藤方哉、清水俊介、曾我隆之、高橋幸成、田代秀樹、坪信也、中川賢一、中村公樹、西川慎一郎、根本天生、船津友規、前川建、三好賢太郎、山崎祐輔、外木慎之、相川敏幸、新谷慎太郎、飯田伸也、井口智之、市川和幸、井上久、江口篤史、大崎達矢、大西勉、加藤完紀、加藤恵一、加藤好一、金井正義、川島栄史、川手博樹、栗原収、黒沼敬之、小林雄一、菟口幹生、佐々木光仁、佐藤明彦、佐藤一王、佐藤礼尚、洪江雅夫、鈴木康之、鈴木雄平、清野貴亮、田口克彦、鶴田保世、伴野良憲、人見大輔、藤江雄二、細井正昭、松原光宏、宮脇勝也、山崎一男、湯本明生、吉野昇、松本章、坂口貴司、八尋洋光

自動機・パーツフィーター

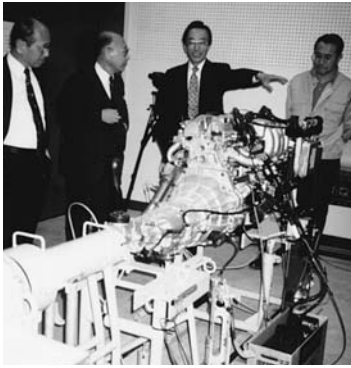
自動化設備のトータルプランナー

関東電子株式会社

Head Office 千葉県長生郡長南町野々1648 TEL 0475-47-1188
Yokohama Office 横浜市磯子区中浜町14-4 TEL 045-761-4841
専務取締役 関 忠好 (昭50年卒)

学科現況紹介

動力機械工学科主任教授
第二工機工学科主任教授
林 守仁



新エンジン火入れ式

二十一世紀の足音が間近に迫っております。国内外の情勢を眺めますと、あらゆる面において、今迄築き上げられた構造が流動的様相を呈し、社会は変動し続けております。大学を取り巻く環境も厳しく、入学適齢人口が減りはじめ、これから大学冬の時代と云われております。それに追い打ちをかけるように、経済はバブルがはじけ、数年前から国内の景気は低迷し、大卒者の就職難が取り沙汰されております。これから大学が新世紀に向かつて未来を切り開いていくには、さらに意欲旺盛な学生を獲得し、社会に必要な質の高い人材を多く育てていくことが必要であります。大学はその使命をはたすべく、如何にして研究、教育、学生進路指導(就職)を魅力あるものにして行くかが中心課題であることは言うまでもありません。

このような環境の取り巻く中、大学改革も着々と進められ、半期制にした動力機械工学科の新しい30生力リキウムは、自動車・航空機・船舶等の輸送用機器の開発設計、生産に従事したい学生に、今後如何なる経済環境においても幅広い分野で活躍し、時代をリードしていきける、幅広い知識を持つた人材の育成を目標としております。そのため、文明論を中心とした一般教育科目を身に付けながら、機械工学の基礎原理を十分理解させた上、動力機械に関係した応用工学を修得させ、最新の機械技術および機械工学以外のあらゆる科目も履修できるようになっております。コースとしてはデザインとベーシックの2つのエンジニアリングコースが設けられております。第二工機工学科において、メカトロニクス技術を重視し、資格の取得も可能で、理論と実践を両立させた、少人数クラス編成による少数精鋭教育などを柱としております。これらのカリキウムは現在3年生まで実施されてきております。

今後さらに学年制廃止とともに春秋入学のできる国際化に対応した、履修科目の自由化により多様な人材の受け入れと育成を可能にした新しいセメスター制を取り入れた70生力リキウムを完成すべく、全教職員が一丸となって、日夜鋭意その対策を練り上げようとしております。

上述のように、時代を先取りしたカリキウムにより、次世代をリードすることのできる機械技術者を養成すると同時に、さらに教育効果の向上と授業の改善をはかることで、教育は授業前にはラバス(授業計画書)を学生に公表し、学期末には学生による授業の評価を行う制度が実施されております。

また大学はこの数年来「量から質へ」と転換をはかってきております。広大な四季折々の美しさを楽しませてくれるキャンパスに、本学科の研究室・実験室をも含めて、最近では立派な高層の建物が次々と整備されてきております。高額の資金の投入による教育および研究設備の充実もはかられ、本学科も大分変わりつつあります。各分野の研究室には高価な装置が導入され、時代に即した最先端の研究教育が行われるように進められております。最近では新しいエンジン実験設備が整い、火入れ式が執り行われたばかりです。大学の大衆化が進み、一部自ら大学のレベルを下げる気配を示しておりますが、他の大学ならいざ知らず、本学はこのような時こそ、大学の大学たる質を保ち、できればさらに引き上げるために、間違っても研究を格下げしてはならないと思っております。そのために本学科の研究雰囲気造りにさらに心血を注がなくてはならないものと痛感いたします。

地球も小さくなり、国際化の潮流に、本学科も毎年多くの教員が国際協力および研究発表などで欧米東南アジアなど諸外国へ渡り、文化交流を盛んにしております。学生の春、夏期を利用した特に語学研修のための短期留学はここ数年毎年数名でおります。また、中国、台湾、タイなどの留学生(大学院生)および大学間交流による短期滞在研究員など学科に籍をおくものは今年も数名あります。学科においてもう一つ大事なこ

とは、卒業生に対するフォローであります。これについては機友会に負うところ大でありまして、機友会には学科の研究・教育・就職あるいは卒業生のアフターケアにも日頃から多大なご支援を頂いております。今年の新入生研修会においても、最近恒例になっているOBからの新入生への激励は学生の感想文には非常に好評を得ております。

社会における学科卒業生に対する評価は、就職など学生の進路に大きく影響するばかりでなく、大学全体に対する評価にも係わってくる大きな事柄であります。従って、OB、OGのこれから益々のご発展に期待するとともに、学科もそれを積極的に支援するよう心がけて行かなければなりません。幸いに今迄卒業生の奮闘により良き成果をおさめてきております。また卒業生間の繋がりを更に深めるために、組織の強化、地方支部の拡張、産学共同研究など技術的応援も惜しみなく行えればと思っております。これらについては学科の執行部と機友会会長および機友会役員間における懇談会で取り上げられております。

東芝特約店(金属・新素材) 金属材料・新素材・金属CVD装置・半導体用ガス・各種設備(設計・施工)の専門商社

ウエキコーポレーション

《旧社名：ウエキガス科学(株)》

本社	〒146 東京都大田区久が原5丁目33番10号	本社勤務	水口直(S47年修士卒)
	TEL (03) 3753-2211 FAX (03) 3753-7117	本社勤務	日向野保雄(S52年卒)
支店	北日本・北関東・相模原	本社勤務	奥山俊英(S54年卒)
営業所	埼玉・横浜・大阪	本社勤務	七澤浩史(H6年卒)

研究室紹介

自動車用次世代エンジン

林義正研究室



人間が機械によって移動する手段を發明したことにより、生活はぐつと豊かになった。今や衣食住に「動」を加えることが必須である。その動くための機械としては自動車もつとパーソナルであり、これに関する技術の研究開発と将来を担うエンジンアを育成することは時代の要求である。

自動車の基本的な機能は走る・曲がる・止まるであり、この性能の追求と同時に環境保全と省資源との調和および安全性の向上に関する技術が求められる。自動車の高性能化の極限をレーシングカーを題材に、また省エネルギー型エンジンを試作エンジンによって探求するほど、他の大学には類を見ない研究を行っている。これらの研究の様子はNHKのテレビや多くの雑誌でも紹介されている。12号館C棟地下のエンジン実験室には、新たに10kW渦電流式動力計や四成分排気分析計などを備え、最新のエンジンを用いた学生実験が行われている。さらに、まだ一流の自動車メーカーにしか導入されていないエンジンのシリンダー内

燃焼解析装置の設置も計画中である。これらの設備や蓄積された技術をもとに新コンセプトのエンジンの研究を行っている。「おはよう日本」や日経メカニカルなどにも東海大の技術指導で開発が進められている次世代エンジンについて紹介する。

このエンジンの特徴はコンバクトで燃費が良く、しかも開発に手間がかかるシリンダーヘッドや排気対策システムには現行のエンジンの技術をそのまま適用できるため低コストであることである。Zメカニズムと称する新しい機構によってピストンの往復運動を回転運動に変換するが、このプロセスの中に燃焼の改善とフリクション低減のポテンシャルが存在する。従来のクランク機構のエンジンではコネクティングロッドが傾くため、

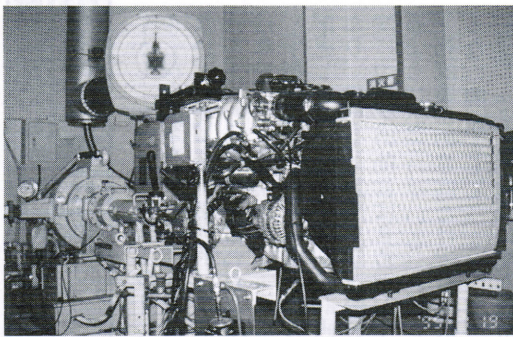


図1 EC110kw動力計とSRエンジン

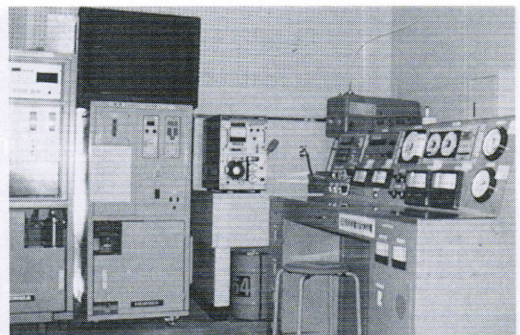


図2 動力計操作パネル

その分、ピストンの動きはサインカーブから離れ上死点近傍に滞在する時間は短くなる。すなわち等容量が低下し作動ガスに加えられる熱エネルギーがピストンを押し圧力に変る時に損をするのである。次にコネクティングロッドの揺動はピストンのサイドフォースを発生させ、フリクションの原因となる。エンジンの小型軽量化を図るため、コネクティングロッドを短くするとますますこれらの犠牲は増大する。

一方、新コンセプトのエンジンではコネクティングロッドの代わりに、両端にローラーの付いたレバーを用いる。そして一方のローラーを双頭のピストンの中間に、他のローラーをローラーガイドで拘束し、ピストンとは直角方向に直接運動をさせるようになってくる。動力はレバーの中央に合合されたクランクピンで回転仕事として取り出す。一つのシリンダーを二気筒として使うことができ、ピストンの動きが理論的にはサインカーブとなる。また、ピストンのサ

イドフォースも著しく小さくなる。そのため燃焼面においては等容量が増し、ピストンの摺動に伴う摩擦損失が低減する。さらにエンジンの中的な小型化が可能となるため自動車に搭載する際の自由度が大きくなるなどのメリットがある。現在、注目を集めている機構のエンジンであり、その研究の中心が本動力機械工学科なのである。

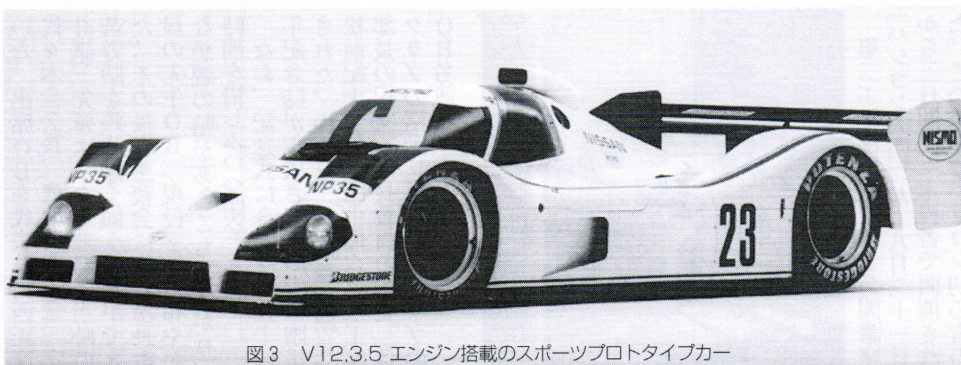


図3 V12,3.5 エンジン搭載のスポーツプロトタイプカー



株式会社 マツボー

東京都港区虎ノ門3-8-21 33森ビル 〒105 TEL03-5472-17111 (大代)

“情報と技術のプロフェッショナル集団”

— 商社機能とエンジニアリング機能を併せ持つ
マーケットチャレンジ型の専門商社です —

卒業生 戸花靖典、松尾安朗 他6名

海外事務所 デュッセルドルフ、ニューヨーク、サンノゼ

第二工学部の現況について 「汝のパンを水の土に投ぜよ」

「社会人入試の導入」

現在、第二工学部は電気工学科(電気工学専攻・通信工学専攻)建設工学科(建築学専攻)機械工学科により構成され、学生は約七五〇名が在籍しています。

第二工学部は当初、働きながら科学技術を学びたいという意欲に燃える、いわゆる勤労青年のために開設された夜間の学部です。しかしながら最近では生活様式が多様化に相まって、勤労学生以外に主婦やフリーター等受験生も多様化してきています。

入学の動機も自分のキャリアアップに役立つ専門知識を身に付けたい実利派や余暇を活用し興味を深めたい追求派まで様々です。

そこで、こういった社会の要請に応えるために「社会人推薦入試」を実施することになりました。就職は条件としない。有職者え所属長が推薦した場合は、年齢制限はしないこととしそれ以外の社会人は、入学時に満二十一歳以上の者とした。

「代々木学生気質」

昼間は社会人として働き、夜間は学生として授業や課外活動に精力を注ぐ生活様式は、不断の熱意と努力が要求される。この過酷な条件を多くの学生諸君が乗り越えていく姿に敬意を表したい。しかしながら近年は、社会人としての「定職者」の比率は六割であり残りの四割はアルバイト学生である。

しかし、このアルバイト学生でさえも親のスネをかじっている者はいない。時代と共に個性的に生活様式を工夫し夜学生と言われた暗さはない。

学務課は、学生の仕事の都合に配慮して追試験の時間割を計画したり、奨学金の説明や学費融資制度についての助言はきめ細かくするように心がけている。しかし、学務課職員の意向だけでは解決できない問題もある。その一つが「転勤」である。通学可能な場所への異動はともかく、地方に転勤になれば、休学か退学を余儀なくされる。仕事優先の勤労学生の辛いところである。近年の「定職者の減少」は、こんなところに原因があるかも知れない。

課外活動をする者は、午後十時からその活動を開始する。学生会、文化系クラブ、体育系クラブ、同好会等様々である。新入生のオリエンテーションと建学祭は、学生会が主導して実行委員会を設立するが、クラブ連合会の人的支援は欠かすことはできない。

第二工学部の卒業生は、恩師や学務課を尋ねて頻りに大学に足を運んでくれる。都内に校舎があるからと笑って応える。

学生と常に接する学務課は、事務処理を迅速にすること以上にアウトホームなあったかさが一番必要なことだと思ふ。学生を人の子として大切におもひ共に成長を喜ぶ心に繋がるといふことだろうか。全ての学生にとって毎日の生活の場である大学が人間的な温もりの

ある環境であることが不可欠ではないだろうか。それを卒業生は「母校」と呼ぶことだろう。

「代々木クラブ連合会三十周年記念式を開催」

去る九月十六日、代々木校舎講堂においてクラブ連合会三十周年記念式が開催され盛会の内に終了しました。

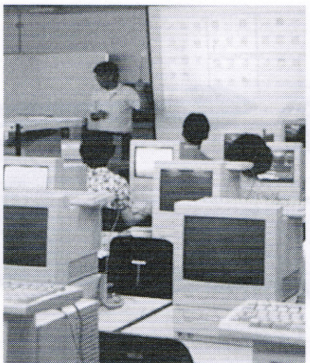
記念式には現役学生百名、OB五十名教職員二十名が参加、木立尚志クラブ連会長の挨拶に続き、田中俊六第二工学部長と秋三二前第二工学部長より激励の挨拶をい



いた。出席OBを代表し河西正彦代々木学生会長、鷹取英夫先輩、室井謙三先輩よりクラブ連発足当時の苦勞話を興味深く伺うことができた。その後、懇親会に移り部長教員の先生OB、現役学生の和やかな懇親の輪があちこちに広がり、時間を惜しみつつ閉会した。

なお、記念式に合わせて三十周年記念誌が作成され出席者に贈呈された。内容は、松前達郎総長、松前紀夫学長、田中俊六第二工学部長の祝文、部長教員の祝文、各クラブの活動状況等、各クラブのOB名簿となっている。

「パソコン入門講座の開催」



第二工学部が主催する公開講座「パソコン入門」が、八月二十一日から三日間代々木校舎で開催された。この講座はパソコン初心者から社会人を対象に、基礎知識からワープロや表計算ソフトなどの紹介・実習インターネット等のパソコン通信について電子計算機センターのスタッフが中心となって指導を行った。講座には三十人の定員に九十名の応募者があった。参加者には大変好評で、次回の早期開催を望む声が多くの方々から寄せられた。

【代々木学務課・関野辰夫】

メカトロニクス研究開発



イスタン技研株式会社

資本金 5,000万円

○放電加工周辺機器、型彫・ワイヤー電極

取締役社長 河西正彦(昭和41年度機械科卒)

○メカトロ専用機、電子機器、金型治具、設計製作

(イスタングループ 従業員総数2,000名)

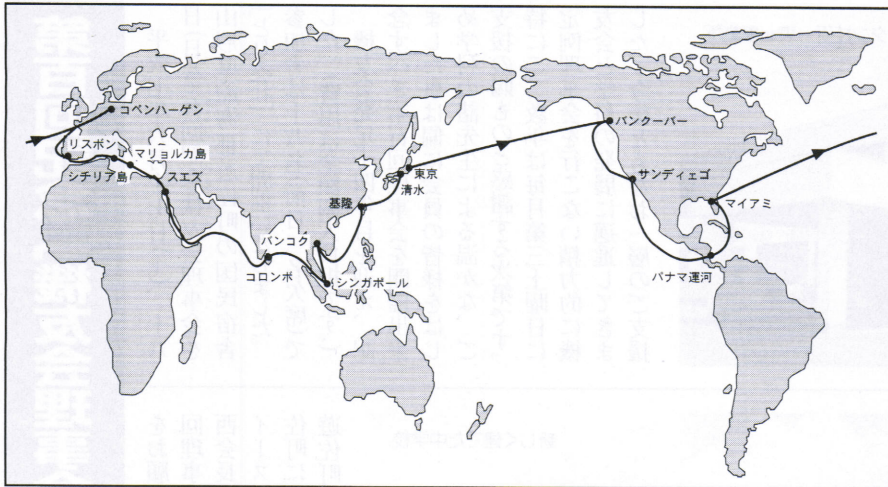
本社 〒242 神奈川県大和市福田6-9-21 TEL0462-69-9911(代)

営業所 大和、埼玉、大阪、山形
工場 大和、山形

東海大学同窓会 事務局からのお知らせ

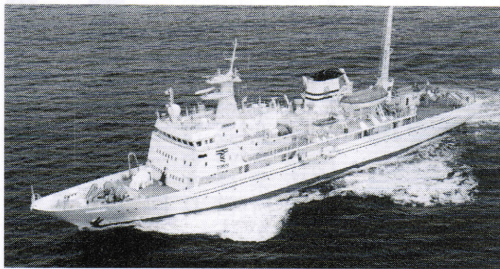
「望星丸」世界一周へ 同窓会員のコースも

東海大学海洋調査研修船「望星丸」を使用しての世界一周航海が来年実施されることになった。航海の日程は六月二十七日に東



京港を出港し十月三十一日に清水港に帰港する百二十八日間の航海で、東京港出港後、バンクーバー、サンディエゴ、マイアミ、コペンハーゲン、リスボン、マリヨルカ、シチリア島、スエズ、コロombo、シンガポール、バンコク、基隆に寄港する。

航海中は研究者、高校生、大学・短大、校友会、学園関係者のグループがリレー形式で乗船する。校友会関係のコースは次の通り。
Aコース 七月十日(二十日) 東京(空路) ↓ バンクーバー ↓ (望星丸) ↓ サンディエゴ ↓ (空路)



東京 費用・三十九万三千元
Bコース 八月五日(二十六日) 東京 ↓ (空路) ↓ マイアミ ↓ (望星丸) ↓ コペンハーゲン ↓ (空路) ↓ 東京 費用・四十九万八千元
Cコース 十月十日(十八日) 東京 ↓ (空路) ↓ シンガポール ↓ (望星丸) ↓ バンコク ↓ (空路) ↓ 東京 費用・二十五万円
Dコース 十月十六日(二十六日) 東京 ↓ (空路) ↓ パンコク ↓ (望星丸) ↓ 基隆 ↓ (列車) ↓ 台北 ↓ (列車) ↓ 基隆 ↓ (望星丸) ↓ 清水 費用・二十九万三千元
Eコース 十月二十五日(三十一日) 名古屋 ↓ (空路) ↓ 台北 ↓ (列車) ↓ 基隆 ↓ (望星丸) ↓ 清水 費用・十八万二千元

参加希望者・問い合わせは校友会事務局までお願いします。

会員証の新しいかたち 「東海カード」

東海大学同窓会(桜井次郎会長・専46機械)設立五十周年を迎え、様々な記念事業の一つとして「東海カード」を発行しました。「東海カード」は同窓会の会員証にクレジットカードの機能を加えたもので通常のクレジットカードとしては勿論、「東海カード」独自の特

典・優待制度も受けられるようになっていきます。また、家族会員カードの発行も可能になっています。また、会員がカードを利用することで、同窓会に手数料収入が入るシステムになっており、会運営に対しての大きな助けになっています。

一九九五年度版 会員名簿を発行

名簿委員会を中心に「一九九五年度版同窓会名簿」の編集・製作が行われています。編集集中の名簿は五十首順、A4版。総ページ数は二千ページを超える見込みで、定価は一万三千元です。当初の計画通り十一月一日の発行を予定しています。

現在、名簿の購入予約を受け付けています。購入希望の方は同窓会事務局までご連絡下さい。

東海大学同窓会事務局
〒114 東京都渋谷区富ヶ谷
二二一 四東海大学内
電話 03-3467-2211(代)
FAX 03-3485-4940

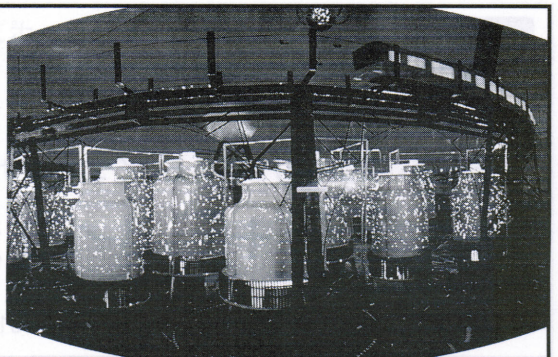
シンワの歴史は、冷却塔の歴史。



株式会社 荏原シンワ

本社 〒104 東京都中央区八丁堀4-2-2 TEL(03)3552-8171
FAX(03)3555-0998

支店：大阪・中部 営業所：福岡・仙台・広島・札幌・金沢



第百回記念「機友会理事会」開催される

平成七年六月十七日(土)、十八日(日)第百回記念機友会理事会を山形県飽海郡遊佐町の国民宿舎「とりみ荘」にて開催いたしました。参加者は十八名(前日二名欠席)でした。(費用は全額個人負担です。)

機友会発足十四年目を迎え、記念すべき第百回理事会を開催出来ました事は偏に会員の皆様をはじめ学科の諸先生による温かな、ご支援の賜ものと感謝する次第です。特にここ数年は毎月第三土曜日に定例理事会を行わない精力的に機友会と学科の発展に邁進してきました。今後ともなお一層のご支援



イースタン技研 東北事業所

をお願い申し上げます。今回第百回理事会を開催するにあたり、河西会長のご縁で(会長の経営するイースタン技研 東北事業所が遊佐町にあるご縁) 山形県庄内地区遊佐町を公式に訪問致しました。



新しく建てた中学校

当日は休日にも拘らず金澤和夫助役様をはじめ役場の商工観光課富樫課長様佐藤補佐の方々に町の説明やご案内を2日間にわたりお世話になりました。遊佐町は庄内富士と呼ばれる「鳥海山」(二、三三七M)の裾野に広がる庄内平野の大地と豊かな水と澄んだ空気とおいしいお米が自慢とのお話でした。遊佐町は人口約二万人の農業を主生産とした町ですが、文化や教



図書館のシェイクスピアコーナー

育の面も非常に力を入れており、ご案内して頂きました一つの近代的な図書館は建物の斬新さとシェイクスピアコーナー(シェイクスピアの故郷で英国アボンエーボン都市と遊佐町とが姉妹都市の為)を設けておりました。また三つの中学校を統合して新しく建てた中学校はホールの様な音楽室や広いロビーに隣接する教室等とても従来の学校とは思えないレイアウトでした。最初に訪問した町役場の古い建物とは丸きり百八十度イメージを異にしており、建物一つとっても文化・教育を重点に置いた地方行政の力点に改めて感心させられました。普通の旅行で名所旧跡等を訪ねる事はありますが今回の様に図書館や学校等、ましてや地方行政の有り方まで触れる旅が出来たのは記念理事会ならではの収穫でした。

日頃「機友会活動とはどう有るべきだ」と思い悩んでいる我々に



「明日の為に何をやるべきか」を学ばせて頂きました。そしてもう一つの収穫は、ご多忙にもかかわらず我々を二日間もマイクロボスで、ご一緒にご案内下さった皆様方の人情味あふれる「人の温さ」を覚えていただいた事です。

町役場の皆様、イースタン技研奥脇様、高橋様にも紙面をお借りしてお礼申し上げます。「本当にお世話になりました。」遊佐の川には毎年鮭が回帰するとの事、我々の機友会もつばに成長してまたいつの日か皆様にお会い出来ます様努力する所存です。

記事 内山 皓



荏原サービスは、ポンプ業界最大手の荏原製作所グループの一員として「水と空気と環境」をテーマに「世界の人々の豊かな将来のために最上の技術とサービスで広く社会に貢献する」ことを企業理念としている会社です。

お客様に感動を与えるテクニカルサービスを開発しています。

それは、**荏原サービス株式会社**です。

本社：東京都大田区羽田
 資本金：4億5千万円
 従業員：900名
 年商：270億円
 (平成6年度実績)

〒144 東京都大田区羽田旭町13-3 TEL03-3743-7311(代) 卒業生 柳川雅春(S45) 小野寺道(S45) 柴田 慎(S51) 田中睦子(S53) 鈴木浩司(S59) 中村勝彦(S62) 永田 剛(H5) 平野俊次(H5) 畦地一彦(H5) 菊川 直(H5) 池田一訓(H6) 井原聖一(H6)